



## 事業実施報告書【講座名：有害鳥獣駆除の後継者育成】実りと活力創造学部

### 第2回「被害対策について」

○日 時：令和元年7月12日（金） 13:30～15:00頃

○場 所：千代田地域づくりセンター 大会議室

○参加人数：13名

○内 容：・イノシシ・シカの被害実態と対策

・電気柵等による被害防止

・被害を防ぐ環境づくり

講師：島根県中山間地域研究センター

農林技術部 研究調整監（鳥獣対策科長）金森 弘樹

講習形態

パワーポイントによる解説（約1時間）、質疑（30分）

講習のポイント

・イノシシとニホンジカの生息状況

イノシシやシカは昔から狩猟捕獲が盛んに行なわれていたので、被害はほとんど無かった。特に中国地方ではたたら製鉄や薪炭材への山林木伐採利用が盛んで住みにくい地域であった。近年これらの山林資源の使用が減少したため獣が増加。天敵であるオオカミの絶滅も要因。

・イノシシの生態

意外と運動神経が良く飛んだり掘ったりとよく働く。毎年出産で最近はやせの餌を人間から与えてもらうため、多産で高齢産。

・電気柵の仕組みと正しい使用

イノシシの対策には電気柵が有効であるが、鼻でショックを受けない限り効果がない。動物から地面に電気が流れて効果がある。アースや漏電に注意。

・鳥獣害から農地を守る

嗜好性の低い農作物栽培、草刈り管理、ヒコバエの管理、集落ぐるみでの取り組みが効果的である。

・シカの被害

イノシシに比べ意外と捕獲数が少ないのがシカであり、環境の変化に対応して生息域を広げている。シカは農作物のみでなく林産物にも多大な被害が起こる。

【写真】

